

名称	専門コース（心理カウンセリングコース）		
総時間数	90 時間以上		
概要	主として医療保健機関・相談機関（教育分野、福祉分野、産業分野、司法・更生分野における当該機関又は部門を含む。）での臨床実務経験又は対人支援実務経験が5年以上ある者等を対象として、多様性を包摂し、持続可能性を帯び、共助の精神を内包した社会を担う高度専門人材を養成することを目的とし、臨床心理学系大学教員に求められる臨床教育・臨床研究、社会の中での生涯発達支援及びダイバーシティの包摂に関する基礎的能力の養成等を内容としたカリキュラムを提供するものである。		
定員	5 人		
授業科目等	実践と理論の融合	22.5 時間	必修（PBL）
	心理学研究法（2 単位）	22.5 時間	3 科目選択
	人格発達心理学特論（2 単位）	22.5 時間	
	臨床発達心理学特論（2 単位）	22.5 時間	
	育児支援特論（2 単位）	22.5 時間	
	家族心理学特論（2 単位）	22.5 時間	
	実践と理論の融合	22.5 時間	
履修資格	<p>次の①～③の全てに該当する者</p> <p>①「基本コース」を修了した者（見込みを含む。）又は既に「基本コース」と同等の科目を別途に履修したことをTEEP運営委員会が認定した者</p> <p>②大学卒業程度の学力を有する者</p> <p>③次のいずれかに該当する者</p> <p>a. 臨床心理士</p> <p>b. 公認心理師</p> <p>c. 医療関係者</p> <p>d. 特別支援学校の教職員</p> <p>① e. 上記のほか、大学又は大学院において心理学を体系的に学修し、心理学を活用した対人援助に関連する職業に5年以上従事した経験を有する者</p>		
選考方法	書面審査およびオンラインによる面接		
内容	<p>〔PBL 演習〕</p> <p>必修となる PBL 演習「実践と理論の融合」は、担当教員が、対面またはオンラインによって指導を行います。その日時については履修科目を決めた後、受講者と相談して適宜決定します。また授業内でこれまでに取り組んだ実践内容や事例について取り上げることがあります。総時間数は 22.5 時間となる予定です。</p> <p>〔選択科目〕</p> <p>選択科目は 5 科目から 3 科目以上を選択します。全ての科目は毎週決まった曜日と時間に実施されます。自身のスケジュールや学習環境に合わせて受講する科目を選択できます。</p> <p>なお、心理学研究科博士前期課程（修士課程）の配当科目を大学院生とともに受講します。大学院科目は少人数科目であり、教育効果をあげるため、基本的に</p>		

	<p>対面型で行われる予定です。また、履修科目の選択に当たっては、事前に本プログラム担当教員に履修相談をすることがすすめられます。た曜日・時間に実施されません。日程は受講者に直接連絡します。また、指導の実践として模擬授業を行うため、講義の実施方法は学内での対面型で実施されます。</p>
<p>修了要件</p>	<p>次の①～③をすべて満たすこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 必修の PBL 演習を履修し所定のレポートを提出し、その提出したレポートが合格基準に達していること ② 選択科目を 3 科目以上履修し、単位修得していること ③ 心理学研究科委員会が上記①および②を確認のうえ、修了を認めていること